

湘語の語気助詞「着」について

王 振宇

アブストラクト：

本稿の目的は湘語における語気助詞「着」の意味を探求することである。現代北京語の「着」には「持続」の意味を表すアスペクト助詞しかないが、中国北方を中心とする多くの漢語方言では「語気助詞」の「着」がまだ使われている。筆者は先行研究を踏まえて、湘語の「着」を広義の「語気助詞」に位置づけ、これについての詳細な記述を行った。その結果、次のようなことが明らかとなった。「着」は動作性述語に接続すると、「ある運動の開始後、または終了後の段階」を話し手が捉え、これを「ほかの動作・運動と関連づけて提示する」という役割を担う。二つの動作・運動をどう関連づけるかは話し手の心的態度によって決まる。一方、「着」は状態性述語に接続すると、「状態」更新後の場面を提示し、その条件のもとで「何かが起きる」「何かをする・させる」等の意味を暗示し、当該の「状態」を話し手の心的態度とのかかわりのなかで捉える働きをする。また、「特性」を表す述語に接続すると、「反実仮想」「話し手の価値判断の表明」などを提示する。

キーワード：漢語方言、湘語、語気助詞、アスペクト助詞、動作性述語、情態性述語

1. はじめに

現代中国語の研究では、助詞の「了」と「着」はよく議論される。

「了」は現代北京語では一般的に、「アスペクト助詞」と「語気助詞」に分けられている。前者は義務的に動詞に付き、動作の「完了」を表す。これに対し、後者は文末に位置し、「新事態の発生を確認する話し手の気持ち」を表す。

- (1) 他 吃 了 飯 了。
彼 食べる Asp. ご飯 Mod.ⁱ
彼がご飯を食べた。

一方、「着」は現代北京語においては、アスペクト助詞として働くものしかない。「着」は動詞に付いた形で、動作や状態の「持続」を表す。

- (2) (動作の継続)
他 一 個人 在 街 道 上 走 着。
彼 一 人 に 町 上 歩 く Asp.
彼は一人ぼっちで町を歩いている。

- (3) (状態の継続)
門 開 着。
門 開 く Asp.
門が開いている。

ところが、歴史言語学の研究によると、「着」にはかつて「語気助詞」の用法が存在したと言われる。次のようなものである。

- (4) 卷上 簾子 著。 (『景德伝灯録』 (17.17) 宋代)
 巻き上げる すだれ Mod.
 すだれを巻き上げなさい。
- (5) 何 不 高 声 問 著? (『景德伝灯録』 (13.0) 宋代)
 なぜ ない 高い 声 尋ねる Mod.
 なぜ大きな声で尋ねないの?
- (6) 且 留 口 吃 飯 著。 (『景德伝灯録』 (19.2) 宋代)
 とにかく 残す 口 食べる ご飯 Mod.
 ご飯を食べるためには、とにかく口だけを残しておく。

これらの「着」(「著」ⁱⁱ)は、「すだれを巻き上げている最中」や「大きな声で尋ねている」、「口を残している」のような、「持続」のアスペクト的意味を表さない。呂叔湘(1941)によると、「命令」(“祈使之辞”) (例(4))、「催促」(“促令之意”) (例(5))、「話者自らの行動の表明」(“自剖己意, 無所加於彼方”) (例(6))などを表し、「話し手の意志」に関わる「語気助詞」であるという。

このような「語気助詞」の「着」は唐宋代には広く使われたが、元代以降は勢力が弱まり、現代になり廃れたという(呂叔湘1941; 羅驥2003)。

ところで、中国北方を中心とする多くの方言では「語気助詞」の「着」がまだ使われていることが、近年、多くの研究により指摘されるようになった。本論文で取り上げる南方方言である湘語のⁱⁱⁱ「着」もその一つである^{iv}。

湘語長沙方言の「着」について、許宝華ほか主編(1999)は次のような三つの意味項目を立てている。

① 「疑問」を表す

- (7) 水 咯 様 深, 鴨子 何什 捞 得 到 食 着?
 水 この 様 深い 鴨 どう とる (可能補語) (結果補語) 食べ物
 こんなに深い水の上で、鴨はどうやって食べ物をとれるのか?
 (現代北京語(以下「北」と略す): 水這麼深, 鴨子怎麼捞得到食物呢?)

② 「詰問の語気」(“反詰語気”)を表す

- (8) 不管 何什 講, 他 総 是 你 的 爺 不 着?
 …であろうと どう 言う 彼 結局 である あなた の お父さん ない
 何と言っても、彼があなたのお父さんではないか?
 (北: 不管怎麼説, 他都是你爸不是?)

③ その動作の後にほかの動作や行為があることを表す

- (9) 昨天 借 哒 你 十塊錢, 今天 還 五塊 着。
 昨日 借りる Asp. あなた 十元 今日 返す 五元
 昨日十元を貸してくれた。今日五元を返す。
 (北: 昨天向你借了十元錢, 今天先還你五元。)

(9)は「残った五元は後日に返す」という「後続する動作」をも含意していると言われる。

また、鮑厚星(1999)は湘語の「着」を「語気助詞」と「アスペクト助詞」(“動態助詞”)に分けている。「語気助詞」の「着」は上の②のような「詰問」(“反詰問語気”)を表すものであるが、「アスペクト助詞」の「着」は③に当たるものである。

i. 「語気助詞」(“語気助詞”)

(10) (長沙方言, 鮑厚星1999)

你 不 講, 我 何是 曉得 着?
あなた ない 言う 私 どうやって 分かる
あなたが言わないと、私はどうやって分かるの?
(北: 你不説, 我怎麼知道呢?)

(11) (長沙方言, 鮑厚星1999)

我 為麼子 要 怕 着?
わたし どうして 要る 恐れる
私はどうして怯えないといけないの?
(北: 我為什麼要怕呢?)

ii. 「アスペクト助詞」(“動態助詞”)

同書は、「アスペクト助詞」の「着」は“已然”(「已然」)の意味を表すと主張する。すなわち、「ある動作がもう一つの動作に先立って完成する」という意味である。

(12) (長沙方言, 鮑厚星1999)

劉大娘: 你 又 轉来 幹 什麼?
あなた また 戻ってくる する 何
なんで戻ってきたの? (北: 你又回来幹嘛?)
劉蘭英: 我 還 要 去 梳 下 頭 着。
私 また ~したい 行く 梳く ちょっと 髪
ちょっと髪を梳いてから(ここを去る)。(北: 我這要先梳一下頭。)

(12) の場合は、“梳頭”(「髪を梳く」)という動作が「ここを去る」より先立って実現するという意味が読み取れる。ところが、いわゆる「アスペクト助詞」の「着」にも同様に、「話し手の心的態度」が付き纏っている。例えば、

(13) (長沙方言, 鮑厚星ほか1999)

他 来 着。
彼 来る
彼が来てから(～する/しなさい)。
(北: 待他来了以後再説。)

この例文では、“他来”(「彼が来る」)という動作がほかの動作より先立って実現する、という「已然」の意味が表されているが、その「後続する動作」となるのは、「話し手自らの行動(～する)」か、もしくは「聞き手に要求する行動(～しなさい)」である。一方、「彼が来てから、彼が～する」のような、「話し手の発話時の心的態度」と無関係の場合は、「着」を使うことができない。要するに、「着」は「話し手の心的態度」と関わっているのである。このような「着」は広義の「語気助詞」に入れる方がよいと考える。以上のような理由により、本稿では、湘語の「着」を「語気助詞」として取り扱う。

2. 湘語の「着」について

以下では湘語の「着」についての記述を試みる。その際、動作性述語の場合と状態性述語の場合とに分けて「着」を考察して行く。その理由は、「着」が動作性述語に接続する時と状態性述語に接続する時とでは話し手の心的態度が異なるからである。なお、以下に挙げる用例はとくに断らない限り、筆者の調査による湘語蔡橋方言の使用例である^v。

2.1 動作性述語の場合

動作性述語は「動作・運動」を表す述語である。たとえば、次のような場合である。

(14) = (12) (長沙方言, 鮑厚星1999)

劉大娘：你 又 転来 幹 什麼？
 あなた また 戻ってくる する 何
 なんで戻ってきたの？ (北：你又回来幹嘛？)

劉蘭英：我 還 要 去 梳 下 頭 着。
 私 また ~したい 行く 梳く ちょっと 髪
 ちょっと髪を梳いてから (ここを去る)。(北：我這要先梳一下頭。)

鮑厚星 (1999) はこの「着」を“已然” (「已然」) を表すアスペクト助詞とし、次のように述べている (日本語訳は本文筆者による)。

“着” 可用在 [V + (NP) + tso + (MOD)] 的結構中表示某一動作將在另一動作之前完成。
 (「着」は [V + (NP) + tso + (MOD)] という構文に用いられており、ある動作がもう一つの動作に先立って完成することを表す。)

(14) は“梳頭” (「髪を梳く」) という動作が「ここを去る」という動作より先に完成することを表している。また (15) (16) においても、

(15) A：可以 看 電視 麼？
 できる 見る テレビ Mod.

A：テレビを見ることができるか？ (北：可以看電視嗎？)

B：你 把 作業 写 完 着。
 あなた を 宿題 書く 終わる

B：宿題を完成させてから (テレビを見てもいい)。(北：你先写完作業再说。)

(16) A：你 好久 結婚？
 あなた いつ 結婚する
 あなたはいつ結婚する？ (北：你什麼時候結婚？)

B：房子 砌 就 着。
 家屋 建てる 遂げる
 家屋が建てられてから (結婚する)。(北：等房子盖好再说。)

“把作業写完→看电视” (「宿題を完成させる→テレビを見る」)、“房子砌就→結婚” (「家屋が建てられる→結婚する」) のように、「ある一つの動作が先行して完成すること」が表されている。ところが、いわゆる「もう一つの動作」は話し手の心的態度によるものに限られている。例えば、(15) は話し手の「命令」 (“可以看電視” (「テレビを見てもいい」))、(16) は「決意」 (“結婚” (「結婚する」)) である。

これらの「着」は現代北京語では「(等/先) ……再说」 (「~てから、どうするかをまた考えよう」) のように言い換えられる。このことから分かるように、湘語の「着」は「話し手が先行する運動の実現を時間的条件とした上で次の行為に踏み出す (踏み出せる)」という「時間条件→後続行動」のプロセスを表す。さらに、次のように話し手が運動の「結果」を予測する場合もある。

(17) 還 不 快点 收拾 幹淨, 他 来 着 咯。
 まだ ない 早く 片付ける きれい 彼 来る Mod.
 早くきれいに片付けないと、彼が来るよ (来たらえらいことになる)。
 (北：還不快点收拾幹淨, 他来了就遭了……。)

(18) (子供が椅子を揺らしている様子を見て)

椅子 脚 揺 断 着 咯。

椅子 あし 揺らす 折れる Mod.

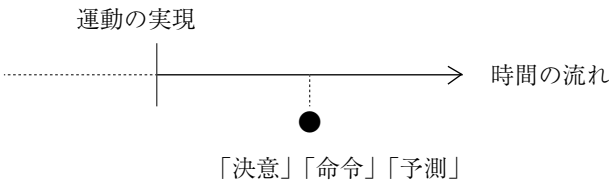
椅子のあしが折れるよ。(折れたら酷いことになるよ)。

(北：椅子脚揺断就遭了。)

ここでいう「結果」は動作の実現により生じる必然的結果(来て、そこにいる状態：脚が折れている状態)ではない。その「必然的結果」に基づいて予測された「事態」(「彼が怒るだろう」；「酷いことになるだろう」)を指す。

要するに、後続する動作(「もう一つの動作」)は先行する運動の実現により派生される「決意」「命令」「予測」などである。このことから、「着」は単に二つの動作の時間関係を表すだけではなく、話し手の「決意」「命令」「予測」などの心的態度を介在させて運動の実現を捉える助詞であることが分かる。図式化すれば次のようになる。

(19)



「着」はこのように後続動作が伴うとき、先行して実現した運動と後続する動作とを関係付けて示す役割を持つ。そのため、「着」は「パーフェクト性」を有する。ただし、「運動の実現」は「運動の完成」とイコールではない。むしろ、「運動の開始」を表す場合もある。たとえば、

(20) (長沙方言, 鮑厚星鮑厚星 (1999))

他 吃 着。

彼 食べる

彼に食べさせはじめてから。(私が後で食べる)

(北：讓他先吃。)

(20) では、「彼が食べはじめてから、『私』が食べる」のように、二つの動作が同時に行われることを表している。「彼が食べる」が先行して完成することを表すためには、次のように結果補語「完(しおわる)」を用いなければならない。

(21) 他 吃 完 着。

彼 食べる 終わる

彼に食べさせるのを終わらせてから(私はその後で食べる)。

(北：先讓他吃完。)

では、「着」はどのようなときに「パーフェクト性」を表し、どのようなときに「同時性」を表すのだろうか。次に見ていくことにする。

2.1.1 「着」の「パーフェクト性」

Comrie (1976) によると、「パーフェクト」とは次のようなものである。

...it[perfect] expresses a relation between two time-points, on the one hand the time of the state resulting from a prior situation, and on the other the time of that prior situation.

つまり、「パーフェクト」は二つの時点(出来事時点と基準時)の関係を表す文法カテゴリーである。二つの時点を捉えるという点では、「運動の内的時間のすがたへの捉え方」といわれる典型的なアスペクト的対立(perfective-imperfective)と異なっているが、Comrie(1976)をはじめとする主流派は「パーフェクト」をアスペクトの範疇に入れている。なぜならば、「パーフェクト」は出来事の実現と基準時に及ぼす出来事の実現の効力の二つを複合的に捉える意味を持ち、この点で出来事の実現を基準時とは切り離して時間軸に位置づけるテンスと異なるからである。

要するに、「パーフェクト」では次の三つの要素がもっとも重要である。

- ①「基準時」に対する「出来事」の先行性
- ②「基準時」における「出来事」の効力
- ③「出来事」を完成的に捉えること

「着」の場合、「基準時」は常にコンテキストにより提示される。例えば、

(22) A: 糜子 時候 行?
何 とき 去る

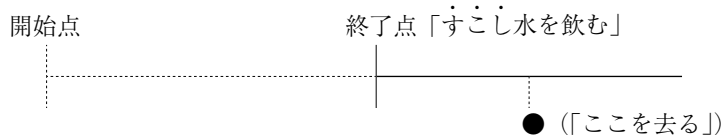
A: いつここを去るか?(北: 什麼時候走?)

B: 吃 滴 水 着。
飲む 少し 水

B: すこし水を飲んでから(ここを去る)。(北: 先喝点水再走。)

(22B)では(22A)の「ここを去る」時が「基準時」となっており、「吃滴水」(「すこし水を飲む」)がそれに先立って実現する動作を表わし、「ここを去る」の成立条件となっている。つまり、「すこし水を飲む」ことが効力性を持ち、その後に「ここを去る」という動作が行われることになる。これを図式すると(23)のようになる。

(23)



一方、「パーフェクト」では、先行する運動を完成的に捉えることも重要である。これまで多くの研究で明らかにされたように、中国語の動詞は「行為」そのものに重点を置くことが多い(荒川清寿1982を参照)。このため、次のような諸手段を使って「動作の完成」を表現する。

①結果補語

吃(「食べる」)→吃完(「食べ終わる」)/吃饱(「食い足りる」)、写(「書く」)→写完(「書き終わる」)/写对(「正しく書く」)、聽(「聞く」)→聽厭(「聞き飽きる」)、殺(「殺す」)→殺死(「殺す」)、搬→搬走(「運び去る」)

②方向補語

走(「歩く」)→走来(「歩いてくる」)・走去(「歩いていく」)、爬(「登る」)→爬上(「登りあがる」)、送→送去(「送っていく」)

③動量補語(時間量や動作量を限定する補語)

看(「読む」)→看两天(「二日間読む」)、吃(「食べる」)→吃一口(「一口食べる」)、説(「言う」)→説一句(「一言言う」)

先に挙げた(14)(15)(16)ではそれぞれ動作量を示す“下”(「ちょっと」)、結果補語の“完”(「しおわる」)、“就”(「し遂げる」)によって、「完成点」が表されている。これにより先行する動作が完

成的に捉えられることになり、その結果、話し手の「決意」「命令」「予測」などの心的態度が (14) (15) (16) に含みこまれることになる。

2.1.2 「着」の「同時性」

「着」は次のような場合、二つの動作が同時に行われることを表す。

(24) 你 看 書 着。(我去買報紙/我打掃一下房子/…)

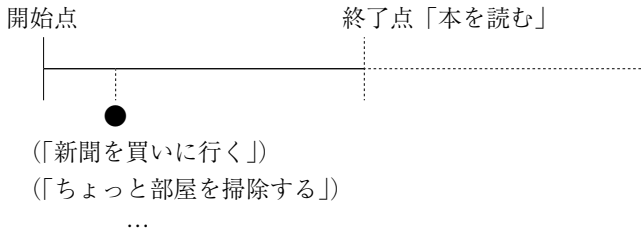
あなた 読む 本

あなたは本を読みなさい。(私は新聞を買いに行く/私はちょっと部屋を掃除する/…)

(北：你先看着書。(我去買報紙/我打掃一下房子/…))

(24)は「我去買報紙(私は新聞を買いに行く)/我打掃一下房子(私はちょっと部屋を掃除する)/…」という意味を含むことができるが、(24)には「終了点」を示すものが一切ない。このような場合、「新聞を買いに行く」(部屋を掃除する/宿題を終わらせる)という運動は、「本を読む」という動作がすでに始まったが、まだ終わっていない段階に位置づけられ、二つの動作が同時に行われることが表される。

(25)



同様に、(26)は「雨が降るとい運動が終わってから(雨が止んでから)」ではなく、「雨が降り始めてから」という意味を表し、「雨が降っている間に何かをする」という「同時性」を表す。

(26) 落 雨 着。

降る 雨

雨が降り始めてから。

(北：等下雨再説。)

「パーフェクト性」と「同時性」は運動間の相対的時間関係を表す点で共通する。当該文がどちらの意味になるかは、「着」に先行する部分に「終了点」を表す語があるかないかによって決まる。そして、「パーフェクト性」、「同時性」いずれの場合においても、「もうひとつの動作」は話し手の意志により生じ、運動が「終了点」「開始点」を以って実現されることにより、「終了後」「開始後・終了前」の段階に位置づけられる。

このように、動作性述語の場合には、「着」は「開始後、終了後の段階」を話し手が捉え、これをほかの動作・運動と関連づけて提示するという意味を持つ。二つの動作をどう関連づけるかは話し手の心的態度によって決まる。

2.2 状態性述語の場合

次に状態性述語の場合について考察する。

「運動」(動作・変化)は「開始、継続、終了」などの「時間的的局面 (temporal phase)」を持ち、時間の中で移り変わる。これに対し、「状態」は時間の流れの中で展開せず、もっぱらある時点におい

て成り立つ主体の様子、有り様のみを表す。

「状態」は時間的展開がない点では「運動」と異なるが、時間軸においてアクチュアルで一時的なものである点では「運動」と共通している。そして、次のような場面の更新をもって時間の流れの中で現象している。

(27)

- 晴れる + 晴れる

.....—————→ 時間の流れ

「着」が「状態」を表す述語文に使われると、「状態」更新後の場面を提示し、その条件のもとで「何かが起きる」、「何かをする・させる」等の意味を暗示する。例えば、

(28) 身体 好 着。

体 よい

体の調子がよくなってから (何かをする/何かをしなさい)。

(北：等身体好了再説。)

(28) では、「体の調子がよい」と「何かをする/しなさい」という「決意」「命令」とが「着」によって関係付けられている。すなわち、「体の調子がよい状態で何かをする/しなさい」という意味である。この場合は前述した「同時性」に近いが、「体の調子がよい」という状態には「開始点」などの時間的展開がない。

(29)

- 体調がよい + 体調がよい

.....—————→ 時間の流れ

● (何かをする・しなさい)

さらに、「着」は (30) のように、ある状態に基づいた話し手の予測を表すこともある。

(30) 他 曉得 這個 秘密 着 咯。

かれ 知る この 秘密 (感嘆詞)

この秘密がもし彼に知られたら (えらいことになる)。

(北：他知道這件事就遭了。)

ここで、話し手は「この秘密が彼に知られる」という状態に基づいて、「えらいことになる」という「危惧すべき」結果を推測している。

ところで、「状態性述語」には「状態」だけではなく、「特性」「質」などを表すものもある。両者の違いは工藤 (2004) によると、次の通りである。

…〈状態〉は、時間的にみて〈一時的〉であり、主体にとって〈偶発的現象 (エピソード)〉である。

時間的にアクチュアルに現象して個別具体的な特定の時間にしばられている。これに対して、〈特性〉〈関係〉〈質〉は、基本的に〈恒常的〉であり、主体にとって〈本質的特徴〉である。

要するに、「状態」は「開始点」を問題にしないとしても、「一時的」なものとして時間軸上に位置づけられるが、「特性」などは時間軸上の特定の位置と関係しない。では、「着」が「特性」を表す述語文の中で使われた場合、どのような意味を表すかを見てみよう。

(31) 我 買 這麼 多 東西, 我 是 百萬富翁 着 吶。
 させる 私 買う こんなに 多い もの 私 である 億万長者 Mod.
 こんなにたくさんのを私に買わせるか。億万長者だったら (買えるけど)。

(北: 要我買這麼多東西, 我如果是百萬富翁倒也成。)

(32) 洗 這麼 多 衣服, 天氣 蠻 好 着 吶。
 洗う こんなに 多い 服 天氣 とても 良い Mod.
 こんなにたくさんのを洗ったのか。もし天氣がよければ (納得できるけど)。

(北: 洗這麼多衣服, 天氣好倒也是。)

(31) では、「私は百万長者である」という「前提」に立てば、「こんなにたくさんのを買える」が、実際には「百万長者」ではないから、買えないという意味である。この文において「着」は「我是百万長者」(「私は百万長者である」)は現実とは異なる「特性」を持つものとして提示する「反実仮想」を表している。

(32) においても、「天氣が良ければ→(たくさんのを洗ったことは)納得する」という「前提—結論」の推論的プロセスが含まれているが、実際には「天氣が悪い→(たくさんのを洗ったことは)納得できない」という意味である。すなわち、現実世界に反することを「前提」として提示しているのが「着」なのである。もう一例を見てみよう。

(33) 他 人 蠻 好 着 吶。
 彼 品 とても 良い Mod.
 彼に品があるなら (彼を信じてもいいけど)。

(北: 他人品好倒是。)

話し手は「彼には品がある」を「反事実」(実際には「彼には品がない」)の「前提」として挙げ、「彼を信じてもいい」という結論に達する。このように、「特性」を表す述語文の場合には、「着」は「反実仮想」の「前提」を提示し、それに基づいて行われる「前提—結論」という推論的プロセスを示していると考えられる。

「着」はこういった推論的構造を築く機能を持っているため、「疑問文」「回想文」「詰問文」などに用いられると、語気を強めることになる。次のような疑問文においては、単に彼の名前を知りたいのではなく、「彼が知人であるかどうか」、(姓名判断の場合など)「運勢が良いかどうか」などを判断するという推理の態度が含まれている。

(34) 他 号 麼子 名字 着?
 彼 という 何 名前
 彼の名前は何か?

(北: 那他叫什麼名字呢?)

(34) では、話し手は前もって「Aさんなら知っている、Bさんなら知らない…」、「Aという名前であれば運勢が良い、Bという名前であれば運勢が悪い…」などの「情報」を持っている。その「情報」に照らし合わせて、「彼の名前」を再確認(検索)しようとしていることを表す。一方、「情報」の再確認(検索)が行われず、単に知らない事実を質問するだけの場合は「着」を使用することができない。

(35) (初対面の相手に名前を聞く時)

你 貴 姓?
 あなた 御 名字
 お名前は?

(北: 你貴姓?)

さらに、「着」は(36)のような「回想文」にもよく使われる。

(36) (話し手が忘れていたものを懸命に思い出そうとすると発する独り言)

他 是 哪年 生的 着?

彼 である 何年 生まれた

彼は何年の生まれだったっけ?

(北: 他是那一年出生的来着?)

(36) では、「彼の生年」は話し手にとって既知の情報である。「着」は話し手が記憶の中の「情報」(「彼の生年」)を再確認(検索)しようとすることを表す文に付いて、懸命に思い出そうとする気持ちを付け加える役割を果たす。また、「着」は「詰問文」に使用されると、単なる詰問ではなく、話し手の価値判断を表明する役割を持つ。

(37) (長沙方言, 許宝華ほか主編 (1999))

不管 何什 講, 他 總 是 你 的 爺 不 着?

であろうと どう 言う 彼 所詮 である あなた の お父さん ない

何と言っても、彼があなたのお父さんではないか?

(北: 不管怎麼說, 他都是你爸不是?)

(37) においては、「彼があなたのお父さんである。だから、彼にそのように接してはいけない(このように接するべきだ)」という話し手の価値判断が表されている。この価値判断は「彼があなたのお父さんである」という「事実」に「着」を付けることによって表されている。

同様に、(38) (39) においても、「着」は「あなたが言わないと私は分からない。」「どんな良い食器戸棚でも継ぎ目がある。」という文に付いて、「私が分からないのも当然だ」「この食器戸棚に継ぎ目があってもおかしくない」という話し手の推論や価値判断を表明する役割を果たしている。

(38) = (10) (長沙方言, 鮑厚星 (1999))

你 不 講, 我 何是 曉得 着?

あなた ない 言う 私 どうやって 分かる

あなたが言わないと、私はどうやって分かるの?

(北: 你不說, 我怎麼知道呢?)

(39) (長沙方言, 伍雲姬 (1996))

再 好的 碗柜 吵, 總 有 縫 不 着?

どんな~でも 良い 食器戸棚 Mod. 所詮 ある 継ぎ目 ない

どんな良い食器戸棚でも継ぎ目があるではないか?

(北: 再好的碗柜都会有縫, 不是吗?)

3. おわりに

以上、「動作性述語」の場合と「状態性述語」の場合とに分けて「着」の意味を考察してきた。前者の場合には、「着」は「ある運動開始後、終了後の段階」を話し手が捉え、これをほかの動作・運動と関連づけて提示するという意味を持つ。二つの動作・運動をどう関連づけるかは話し手の心的態度によって決まる。一方、後者の場合は「状態」を表す述語と「特性」を表す述語に分けられる。「状態」の場合は「状態」更新後の場面を提示し、その条件のもとで「何かが起きる」「何かをする・させる」等の意味を暗示し、当該の「状態」を話し手の心的態度とのかかわりのなかで捉える。「特性」の場合は反実仮想や話し手の価値判断を表す。

要するに、「着」には「開始性」「終了性」「同時性」といったアスペクトの意味や「状態性」「特性性」などの意味に対応して、話し手の心的態度を表す機能がある。心的態度には「意志」「命令」「当為」「推論」などさまざまなものが含まれるが、これは事象が時間の流れにそって実現するものであるか否か、事象のどの時点を捉えるかなどと深く関わっている。それにより、話し手の心的態度も「時間関係」を捉えたり、「推論的プロセス」を捉えたりするのである。

湘語の「着」は話し手の心的態度を介在させることから、「語気助詞」(モダリティー)のカテゴリーに入れるべきで、事象のすがた(持続)のみを捉える現代北京語におけるアスペクトの「着」と本質的に異なっている。従来の研究によると、両者は同じく「付着する」意味を表す動詞から進化してきたものだという。しかし、一方は「モダリティー」に、一方は「アスペクト」に発展していく。これはなぜであろうか。その原因を明らかにすることは今後の課題の一つである。また、湘語の「着」を一般モダリティー論の中で捉えるとすれば、日本語のテイル形式との対照研究への道も拓けてくる。

注

- i 本稿では、Asp.はアスペクト助詞、Mod.は語気(モダリティ)助詞をあらわす。
- ii 「着」は古典で、「箸」、「著」、「者」のような、いくつかの書き方がある。
- iii 湘語：湘方言。湖南方言。漢語の七大方言の一つであり、湖南省に分布する。さらに、新来の「新湘語」と、旧来の「湘語」に分けられる。前者には「長沙方言」など、後者には「邵陽方言」などがある。
- iv 語気助詞の「着」の分布地域は、羅驥(2003)によると、中国の北方が多数である。一方、湘語や贛語、閩語などの方言にも散在しているが、歴史上の移民によるものであるという。
- v 調査の詳細は王振宇(2009)参照。本稿用例の話者情報は次のとおりである。
調査記号:WSD。年齢:52歳。出身地:蔡橋郷。長期外出歴:なし。職業:小学校教員。教育程度:高校。話せる言語:蔡橋方言;標準語。

参考文献

<中国語文献>

- 儲澤祥(1998)『邵陽方言研究』。湖南教育出版社。
- 羅驥(2003)『北宋語気詞及其源流』。巴蜀書社。
- 呂叔湘(1941)「積景德伝灯録中在、著二助詞」、『華西協合大学中国文化研究所集刊(一卷三期)』。『漢語語法論文集』(商務印書館1984)に再収録。
- 鮑厚星・崔振華・沈若雲・伍雲姬(1999)『長沙方言研究』。湖南教育出版社。
- 王振宇(2009)「蔡橋方言における母音の変遷について」、『地域政策科学研究』6号。鹿児島大学人文社会科学研究所。
- 伍雲姬(1996)「長沙方言動態助詞的系統」、『湖南方言の動態助詞』。湖南師範大学出版社。
- 許宝華・宮田一郎主編(1999)『漢語方言大詞典』。中華書局。

<日本語文献>

- 荒川清秀(1982)「中国語の語彙 語彙に関する問題」、『講座日本語学12外国語との対照Ⅲ』。明治書院。
- 木村英樹(1982)「テンス・アスペクト 中国語」、『講座日本語学11 外国語との対照Ⅱ』。明治書院。
- 工藤真由美(1995)『アスペクト・テンス体系とテキスト』。ひつじ書房。
- 工藤真由美(2004)「第7章現代語のテンス・アスペクト」、『朝倉日本語講座』。朝倉書店
- 望月圭子(1997)「中国語のパーフェクト相」、『東京外国語大学論集』第55号。

<英語文献>

Comrie, B. (1976). *Aspect*. London: Cambridge University Press